

特集 本シェルジュが読み解く「2024年版中小企業白書」のテーマ

第1章

中小企業白書が変わった

——テーマに込めた思いを読み解く



村上 知也

神奈川県中小企業診断協会

「2024年版中小企業白書・小規模企業白書」（以下、白書）が5月に発刊されましたが、「概要」から開いてみて驚きました。今年から書式や構成が大きく変わっていたからです。

昨年版までは、テーマ別分析として3つの大テーマが挙げられていましたが、2024年版では、「環境変化に対応する中小企業」という大テーマが1つだけでした。環境変化を乗り越え、経営資源を確保し生産性の向上につなげていく取組みや、成長につながる投資行動とそのための資金調達、支援機関の役割と体制の強化について述べられていました。

そして、その大テーマのもと、以下の18の詳細テーマが掲げられていました。

①令和6年能登半島地震と中小企業のBCP策定の状況、②新型コロナウイルス感染症の影響と対応、③中小企業の業況と経営課題、④人手不足、⑤賃上げ、⑥省力化投資と生産性の向上、⑦海外需要と日本企業の決算状況、⑧価格転嫁、⑨事業承継、⑩経営改善・再生支援、⑪中小企業の成長、⑫中小企業の成長投資、⑬中小企業の成長投資のための資金調達、⑭中小企業の成長に向けたM&A、⑮小規模事業者の経営課題、⑯小規模事業者の売上げの確保、⑰起業・創業による新たな担い手、⑱中小企業・小規模事業者を支える支援機関

「④人手不足」、「⑤賃上げ」といった社会課題を踏まえ、「⑥省力化投資」の重要性が高まり、2024年には中小企業省力化投資補助

金もスタートしました。当然ですが、白書での分析結果は、中小企業施策に直結すると感じます。

そこで今回の本シェルジュでは、18のテーマの中から4つのテーマを選び、関連書籍を紹介しながら、各テーマを紐解いていきます。まずは、「②新型コロナウイルス感染症の影響と対応」の振り返りを行い、コロナ禍対応でどのように経営が変わっていったのか、変わらなかったのかを確認します。そして、コロナ禍で大きなダメージを被った企業の「⑩経営改善・再生支援」について触れます。しかし、暗いイメージばかりではなく、逆に大きく成長を遂げたケースもあるため、「⑪中小企業の成長」について取り上げます。最後に、多様化する起業にどのような支援をしていくべきかを考えるため、「⑰起業・創業による新たな担い手」について紹介します。

重苦しい雰囲気から脱して、今年の中小企業白書は成長に大きく舵を切ったように感じます。しかし、成長に痛みは付き物。痛みの緩和のためにも、最後の18番目のテーマで我々支援者の奮起を促していると感じます。

村上 知也

(むらかみ ともや)

2008年中小企業診断士登録。中小企業のデジタル化に取り組んでいる。また、ビジネス書書評の本シェルジュのサイトを運営している。

<https://bookcierge.jp/>

